

厚生連奨学生だより

第1号

平成21年1月

長野県厚生農業協同組合連合会

J A 長野厚生連理念

J A 長野厚生連は、J A 綱領のもとに医療活動を通じ、組合員・地域住民のいのちと生きがいのある暮らしを守り、健康で豊かな地域づくりに貢献します。

J A 長野厚生連看護理念

私たちは、J A 長野厚生連理念に基づき、農村および地域の尊い生命と健康を守り、すべての人々がその人らしく明るく生きられるように、看護を通して援助します。

行動目標

1. 私たちは、医療に携わる者として、常に人間性を磨くとともに知識と技術の習得につとめます。
2. 私たちは、地域のニーズを尊重し、親切で良質な保健・医療・福祉サービスの提供につとめます。
3. 私たちは、組合員・地域住民の主体的な参加のもとに、労働組合とともに民主的な運営と健全な経営につとめます。
4. 私たちは、農村医学と農村医療の確立と発展につとめ、農業と農村を守ります。
5. 私たちは、教育・文化・地域活動を積極的に推進し、地域の信頼を高め、連携強化につとめます。



代表理事理事長 若林 甫 汎

協同組合の理念は「正直」「誠実」「他人への配慮」

奨学生の皆さん、お元気で勉学に勤しんでおられることと思います。私達長野県厚生連の10病院は、皆さんが無事、学業の全過程を着実に終了され、国家試験を乗り越えられて医療現場の一線に就かれることを心から期待し、「頑張れ！」の声援を送っております。また、病院の現場では、病に悩む人々がフレッシュで意欲にあふれる皆さん方との出会いを心待ちにしております。

は御承知のように、協同組合の病院です。県下32万8千人の農協組合員が出資をし「少人数ではないことを皆が協力し、力を結集することによって実現できる」を合言葉に、組合員や地域の要望や夢を一步一步実現して参りました。病院運営もそうした事業活動の一つです。私達の先輩は国や県、市町村など行政が手を出さない、いわば環境条件に恵まれない地域の医療を中心として、それに、健康管理

活動、福祉活動を連結させて活動を続けて参りました。その結果は健康管理活動、医療活動、介護福祉活動の三位が一体となったバランスの良い活動。長寿県のモデルとして高く評価され、私達厚生連の仲間が誇りとするところに成長しました。また、私達は協同組合理念として「正直」「誠実」「他人への配慮」を心の支えとしております。皆さんに奨学金制度を提供するのにもこうした理念からであります。皆さん

が一線に立たれる時には、高度医療の確立をはじめ、食農と医療、環境保全と医療の分野まで広がっていくことでしょう。皆さん方と一緒に夢を創り、実現することをお誓いします。



夢に向かって共に前進しましょう

看護総合企画室長 清水 久美子

J A 長野厚生連の奨学資金は、学生生活を支える上で役に立っていますか。厚生連の病院で働きたいから、厚生連の目指す、「保健・医療・福祉」を地域の中で生かして行く仕事に魅力があるからなど、奨学生となった理由は様々だと思えます。夢と希望に満ち溢れ、日々学びを深めている皆さんにエールを送ります。感性豊かな仲間が数多く育っていると確信しています。学ぶ環境は違っても目的はひとつ、意欲が増す環境で、さまざまな人生経験を積み重ね、「患者様に学ぶ」という気持ちで大切に育ててく

医療職を目指す人は臨床実習での学びがとても大切です。厚生連の10病院は最適な場の提供をする心構えを何処でも持っています。実習場所ではコミュニケーションを図りながら、「看護の明るい未来」を語る仲間と共に、心身ともに育ってくださることを期待します。仲間との学び、臨床実習での患者様からの学び、分厚い教科書に囲まれたの学び、それらの中に心に響くものが沢山あると思います。患者様は、自分の置かれていた状況を、理解しようと努力してくる人を求めています。そんな看護師であって欲しいと願っていると思います。五感を磨いて「愛」ある心で患者様とご家族を、身近で見守ることの大切さをゆっくり学んでください。不安材料の多い、現在の社会情勢ではありますが、皆さんが学業に専念できるように、奨学資金貸与だけでなく、様々な形で支援できればと考えております。学校の休みを利用して卒業までに、厚生連の10病院をまわり、貴方の目と心でそれぞれの病院の良さを充分に感じてください。厚生連が長野県の地域医療に果たしている役割を実感してください。あせらずゆっくりと目的に向かい夢の実現のために前進しましょう。



将来どのような看護師を目指していきたいか

佐久大学看護学部

青木友香理

佐久大学に入学する前、私は正直どのような看護師になりたいのか、何だか曖昧で漠然とだけしか考えていなかった。しかし、4月からの勉強や実習を通して、目指したい看護師像が見えてきた気がする。将来私は、患者さん思いやれる看護師になりたいと考えている。



奨学生の声



将来どのような看護師を目指していきたいか

佐久大学看護学部

浅野 祐樹

私の理想の看護師像は、患者さんのために働ける看護師です。一口に患者さんのためと言っても、ものすごく難しいことだと思います。患者さんは、人それぞれ価値観や個性などが違いますので、その患者さんにとって、どのような行為が患者さんのためになるのか全く違うと思いますし、方法なども変わってくると思っています。

8月上旬に実習という形で初めて病院に行き、院内やひとつの科の患者さんの様子などを見学させてもらった。一人一人の患者さんに優しく、思いやりを持って接する看護師さんの姿を見て、私もこんな看護師さんになりたいという目標を持つことができた。患者さんの様子を見ようとすると、時や昼食を運ぶ時、足を洗う時など一つ一つの言動に思いやりの心が表れていたように感じた。

また、この夏休み中、同じ看護の専門学校に行った友人と会うことができた。彼女の学校はすでに本格的な実習をやっているらしく、向こうの宿題ということ、私が患者役で血圧を測ってもらった。患者役の私に説明したり、許可をもらって接している彼女の姿に感銘を受け、私はここでも思いやりというものを実感することができた。

患者さんを第一に考えた接し方をこれからも追求し、将来、思いやりのある看護師になりたいと考えている。

厚生連奨学金制度を利用して

小諸看護専門学校卒業

小池 容子

私は、社会人を経て看護学校に入学しました。学費は、それまで貯めたお金で3年間払っていくつもりでしたが、計画通りにはいかず、最後の1年の学費が足りなくなりました。

アルバイトをしようと考えましたが、実習や国家試験勉強をしながらのアルバイトは厳しく思えました。親に借りることも考えましたが、親の負担になるようなことは今さらしたくないという気持ちで



私がこのことを思ったのは初めての实習の時である。実習では、看護師の仕事の大変さや、やりがいを知ることができた。点滴の管理や患者さんの排泄の世話など、大変な仕事も多かった。しかし、看護師の方々は、テキパキと自分の仕事をこなしていた。患者さんのことを想い、大切な仕事であるからこそできることだと感じた。そのためには治療から日常生活のことまで患者さんに注意するべきことは注意していた。また、患者さんと触れ合うことで、患者さんの身近な存在となり、一番の理解者となっていた。

厚生連奨学金制度を利用して

長野医師会付属看護専門学校卒業

小林かおり

私は、看護師を目指し看護学科から3年課程の看護学科へ進み、午前中は病院で働きながら午後は学校で学んでいました。学費は自分で払っていました。

お陰様で、安心して学業に専念することができ、看護師になることができました。今、職員の一人として働くことができることに感謝しています。精一杯努力していきたいと思えます。

他に方法はないのか考え、調べて、篠ノ井総合病院にも奨学金制度があることを知りました。まさか自分が働きました。思いやっていた病院で奨学金制度を受けることができるとは驚き、これほどありがたいことはありませんでした。

お陰様で、安心して学業に専念することができ、看護師になることができました。今、職員の一人として働くことができることに感謝しています。精一杯努力していきたいと思えます。

編集後記

「厚生連奨学生だより」ようやく第1号の発行となりました。原稿の依頼から編集・構成など、慣れないことも多く大変でしたが、なんとか完成に至りました。

今回掲載した奨学生の声はもちろん、奨学金制度を利用して看護師になった先輩の声や、医師を目指す医学生の声なども今後掲載していく予定です。

この第1号を機に、奨学生のみなさんに親しんでもらえる、また情報交換の場としても役立ててもらえる紙面づくりに努めていきたいと思っています。

ご意見・ご要望などありましたらお寄せください。

